

米国のベネズエラ侵略に抗議し、即時中止を求める(談話)

2026 年 1 月 7 日

安保破棄中央実行委員会

事務局長 東森英男

アメリカのトランプ政権は 3 日、ベネズエラの首都カラカスに大規模な軍事攻撃を行ない、マドゥロ大統領と妻を拘束して米国に連行しました。そしてトランプ大統領は「政権移行が実現するまで米国が(ベネズエラを)運営する」と表明しました。

これは、国連憲章が禁じる「武力による現状変更の試み」であり、国際法に明白に違反し主権国家の権利を乱暴に踏みにじるもので、断じて認められません。私たちは、トランプ政権がベネズエラへの軍事侵略と不当な支配を直ちに中止し、マドゥロ大統領らを直ちに解放することを厳重に要求します。

この事態に対して、5 日の国連安全保障理事会で、アメリカの行為を国際法違反として各国から非難が相次いだのをはじめ、世界各国から批判の声が高まっています。このようなアメリカの行為がまかり通れば、ロシアのウクライナ侵略などが正当化され、世界の無法化が拡大することになります。

この問題について高市首相は 5 日の年頭記者会見で「ベネズエラにおける民主主義の回復、情勢の安定化に向けた外交努力を進めていく」などと述べただけで、今回のトランプ政権の行為について触れていません。これは、日頃の「法の支配」強調と著しく矛盾しており、トランプ政権追隨の姿を如実に示したものとして、断じて許されません。高市政権は、トランプ政権に対してベネズエラ侵略の中止を求めるべきです。

私たちは、トランプ政権による今回の暴挙と、それに無批判に追隨する高市政権を許さず、国連憲章に基づく平和的な世界の構築に向けて奮闘する決意です。

以上